

		チェック項目	○	△	×	無回答	
I 子どもの発達	1	乳幼児期発達の特性					
		① 子どもは、様々な環境との相互作用により発達していくことを理解している。	5 100%				
		② 子どもの発達は、豊かな心情、意欲及び態度を身に付け、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。	5 100%				
		③ 保育士は、子どもの発達及び生活の連続性に配慮し保育をしなければならないことを理解している。	5 100%				
		④ 大人との信頼関係を基に、身近な環境を通し成長することが乳幼児期の発達の特性であることを理解している。	5 100%				
		⑤ 乳幼児期は身体的条件や生育環境等の違いにより、一人一人の心身の発達の個人差が大きいことを理解している。	5 100%				
		⑥ 発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢につながりを持って成長していることを理解している。	5 100%				
II 保育の内容	1	保育のねらい及び内容					
		① 「保育の目標」を達成するために「ねらい」があり、「ねらい」をより具体的にしたものが保育の「内容」であることを理解している。	5 100%				
		② 養護と教育の一体的に行うために、保育のねらい及び内容を養護と教育の両面から捉える視点をもって保育にあたっている。	5 100%				
		③ 「養護」は保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解している。	5 100%				
		④ 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	5 100%				
	2	保育の実施上の配慮事項					
	①	子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行わなければならないことを理解している。	4 80%	1 20%			
III 保育の計画及び評価	1	保育の計画					
		① 保育所は保育の目標を達成するために、「保育課程」を編成し、それを具体化した「指導計画」を作成しなければならないことを理解している。	5 100%				
		② 保育課程及び指導計画は柔軟で発展的なものとし、一貫性のあるものにしなければならないことを理解している。	4 80%	1 20%			
		③ 保育の計画に基づいて保育をし、保育内容の評価及び改善に努め、質の向上を図るとともに、社会的責任を果たさなければならないことを理解している。	5 100%				
		④ 入所している子ども及び家庭の状況や保護者の意向、地域の実態を考慮し、保育所に適したものを作成できる。	4 80%	1 20%			
		⑤ 保育の目標とそれを具体化した各年齢のねらいと内容があり、一貫性のある計画が作成できる。	4 80%	1 20%			
		⑥ 保育課程に基づいた具体的な指導計画を作成できる。	3 60%	2 40%			
		⑦ 各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成できる。	3 60%	2 40%			
	2	保育の内容等の自己評価					
	①	保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している。	5 100%				
	②	保育所は、保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならないことを理解している。	4 80%	2 20%			
IV 発達と援助	1	乳児の心身の発達段階を理解し、適切な援助ができる(乳児保育)					
		① 言葉かけは優しく、感情を込めて、ゆっくり話しかけ、喃語を育むようにしている。	5 100%				
		② 玩具を使って、持ちかえたり、振ったりする手の動きを促すようにしている。	5 100%				
		③ 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通し身体発達の援助を行うことができる。	5 100%				
		④ 絵本等を通し、豊かな言葉を伝えることができる。	5 100%				
		⑤ 保護者と連携を密接に取り、子どもの心身の発達について共通理解している。	3 60%	2 40%			
		⑥ 個人の発達の連続性、年齢の発達の連続性、生活や遊びの連続性等を考慮し関わっている。	3 60%	1 20%	1 20%		
		2	子どもの基本的な欲求を受け止め、触れあい、満足させることができる(乳児保育)				
		① オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	5 100%				
		② 睡眠の途中で目ざめたときは、すぐそばにつき様子を見ながら再入眠を促している。	5 100%				
	③ 触れあい遊びや、声かけをたくさんし、喃語の発生意欲を育てている。	5 100%					
	④ 泣いたり、ぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。	4 80%	1 20%				
	1	安全で保健的な環境が整えられる(乳児保育)					
	① 転落事故の予防から、窓の内側に踏み台になるようなものを置いていない。	4 80%	1 20%				
	② 玩具、遊具等は1日1回以上掃除消毒をしている。	3 60%	1 20%	1 20%			
	③ 熟睡できるよう落ち着いた環境を整えている。	5 100%					

V
健康
及び
安全

	④	ベッド内に、ビニール袋やベビーパウダーなど事故につながるようなものは置いていない。	5 100%			
	⑤	ベッドに故障がないか点検し、ベッドサークルも閉め忘れのないようにしている。	5 100%			
	2	乳児の病気が分かり、適切な世話ができる(乳児保育)				
	①	検温は1日3回を基本とし、必要に応じて随時行っている。	5 100%			
	②	午睡の状態(呼吸、顔色、嘔吐、汗)を常に観察するとともに、SIDS(乳幼児突然死症候群)のチェックを記録している。	5 100%			
	③	オムツ交換は、不快を知らせたとき、または必要に応じて優しく言葉をかけながら行っている。	5 100%			
	④	家庭からの連絡帳の記入を毎朝見て、睡眠時間、授乳の時間等、必要事項のチェックを行っている。	4 80%	1 20%		
	⑤	授乳は、子どもが欲しがるときに、抱いて目を合わせて飲ませ、授乳後はゲップをさせ、うつ伏せ寝は避けている。	4 80%			1 20%
	3	乳児の好奇心や発達を促す環境が整えられている(乳児保育)				
	①	言葉かけや玩具を通して、目、耳、口、手の感覚機能の発達を促している。	4 80%	1 20%		
	②	玩具は与えずぎず、色彩や音色、形、感触などに留意し、清潔にしている。	4 80%	1 20%		
	③	楽しんで這い這いが十分にできるよう、安全で自由に移動ができる空間を整えるようにしている。	5 100%			
	④	外界に対する興味を引き出し、見る、聞く。触れる等の経験が十分にできるよう環境を整え、活動的に遊べるようにしている。	4 80%	1 20%		
	⑤	手遊びや模倣遊びを楽しませながら、日常生活に必要な身振りに興味を持たせるようにしている。	5 100%			
	⑥	安全に配慮しながら、からだを動かす心地よさを味わって遊ぶ機会を作るようにしている。	5 100%			
	4	乳児の生活の場としてふさわしい温かみや落ち着きのある環境とは何かが理解できる(乳児保育)				
	①	睡眠が十分にとれるよう、静かな環境を整えている。	5 100%			
	②	授乳はゆったりと抱き、「おいしいね」と言葉をかけたり微笑みかけたりするようにしている。	4 80%			1 20%
	③	楽しい雰囲気でするよう心がけている。	5 100%			
	④	落ち着いた雰囲気でするよう心がけている。	5 100%			
		チェック項目				
	1	挨拶・電話・来客対応ができる	○	△	×	無 回 答
	①	相手に対して正対し、目をきちんと合わせ、挨拶や会釈等もきちんとできる。	5 100%			
	②	保護者、来客に対して正しい言葉遣い、好感の持てる挨拶ができる。	2 40%	3 60%		
	③	電話が鳴ったら早く出るようにしている。	2 40%	2 40%	1 20%	
	④	電話の用件は間違いがないようメモに残し、確認や伝達を行っている。	3 60%	2 40%		
	⑤	周囲の人や来客に清潔感を与える対応や身だしなみを実践している。	5 100%			
	2	言葉遣いに気をつけ、常に笑顔を心掛ける				
	①	いつも笑顔で対応できる。	4 80%	1 20%		
	②	きれいな言葉遣いで、心地よい会話ができる。	2 40%	3 60%		
	3	仕事に適した身だしなみに注意している。				
	①	子どもの発達段階を意識し、活動的で子どもが心地よく感じられる服装を心がけている。				
	②	髪が顔にかかったり爪が伸びたりなど、不衛生にならないよう日頃より気をつけている。				
	4	自己の健康管理ができる				
	①	睡眠を十分にとり、勤務に支障をきたさない規則正しい生活を送っている。	3 60%	2 40%		
	②	朝昼夜3度の食事をきちんと摂っている。	2 40%	2 40%	1 20%	
	③	体調不良のときは速やかに通院している。	5 100%			
	④	予防接種を受けるなど、できるだけ予防に努めている。	5 100%			
	5	保育士という職種や園の信用をなくす行為、発言をしない				
	①	日常生活で保育士としての度を越す言動をとらない。	5 100%			
	②	セクシャルハラスメントや虐待など保育士にあるまじきことをしない。	5 100%			
	④	保育士としての生活、行事をこなし、毎日楽しく勤務している。	4 80%	1 20%		
	6	上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができる				
	①	上司の指示を実行し、結果を報告している。	5 100%			

	②	上司の言葉を素直な気持ちで受け止めることができる。	4 80%	1 20%		
	③	就業規則等、諸規則を理解し、規則を守る生活を心がけている。	1 20%	3 60%	1 20%	
	④	小さなことでも、仕事上不安なことは上司に相談している。	5 100%			
7		保育所における2つの保護者支援について理解している				
	①	入所児の保護者に対する支援及び地域の子育て家庭への支援双方に、積極的に取り組まなければならないことを理解している。	3 60%	2 40%		
8		保育所における保護者に対する支援の基本				
	①	子どもの最善の利益を考慮し、保護者の気持ちを受け止め、保護者一人一人の自己決定を尊重することを理解している。	5 100%			
	②	保護者や子どものプライバシーに留意し、必要に応じて地域の関係機関等と連携及び協力を図ることを理解している。	4 80%	1 20%		
9		入所児の保護者との相互理解に努めている				
	①	子どもの送迎時や行事など様々な機会を通し、子どもの様子や保育の意図を説明し、保護者との相互理解を図っている。	4 80%	1 20%		
10		公平に人の話を聞いたり、話をしたりし、正確に伝達できる				
	①	協力体制の重要性を認識し、上司・同僚等と仲良くしている。	5 100%			
	②	自分の意見を話すだけでなく、相手の意見を偏見を持たずに聞くようにしている。	5 100%			
	③	分からない場合は、その旨正直に伝え再確認をしている。	4 80%	1 20%		
	④	伝達の順番と方法を日頃より確認している。	5 100%			
	⑤	業務遂行にあたって、正確・迅速かつ、こまめに上司に報告・連絡・相談を実践している。	4 80%	1 20%		
11		自分の職務に積極的に取り組むことができる				
	①	勤務開始時間の10分以上前に出勤している。	2 40%	2 40%	1 20%	
	②	指導計画を基に、日々の乳幼児の状況に沿った保育をしている。	4 80%	1 20%		
	③	毎朝、行事予定表等に目を通し確認、記憶している。	4 80%		1 20%	
	④	進んで保護者に話しかけることができる。	2 40%	3 60%		
	⑤	自ら進んで職務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。	3 60%	2 40%		
12		職務遂行に積極的で、担当以外の業務にも進んで取り組むことができる				
	①	掃除などの登板業務を、進んで手伝うことができる。	4 100%	1 20%		
	②	自分以外の保育士等の担当業務内容を理解している。		5 100%		
	③	他の保育士等とのコミュニケーションを密にしている。		5 100%		
13		職務の中で、不都合なことの改善及び提案ができる				
	①	会議等で積極的に発言できる。		4 80%	1 20%	
	②	「皆がやっているから」「以前からの慣例だから」という思いにとらわれない。	4 80%	1 20%		
	③	自分だけの不都合かどうかを客観的に考え、より良くなるための改善や修正に向け提案ができる。	2 40%	3 60%		
	④	考えたこと、思いついたことを上司に相談できる。	4 80%	1 20%		
	⑤	自分の園の長所・短所を正しく理解している。	2 40%	3 60%		
14		自己研鑽を積むことができる				
	①	人間として資質を磨くように努力する意欲がある。	2 40%	3 60%		
	②	保育士としての基本である研修に取り組む意欲を持っている。	5 100%			
	③	苦手な分野の情報や研修を知ろうとする意欲がある。	3 60%	2 40%		
	④	保育行政や他施設の保育内容に関心がある。	2 40%	3 67%		
	⑤	保育に関する情報誌、専門書またはインターネットなどの外部情報を取り入れている。	3 60%	2 40%		
	⑥	指定された研修以外に、自分で知り得た研修への参加伺いができる。	1 20%	3 60%		
	⑦	研修報告などで気付いたことを自分の業務に反映できる。	3 60%	2 40%		